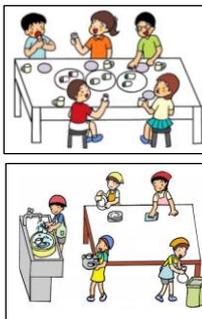
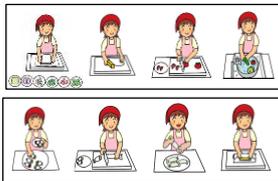


指導事例の紹介

生活単元学習

- あたらしいがくねん
- きょうしつのきまりをつくろう
- つきのこよみ
- やさいをそだてよう
- おろみがわにいこう
- クッキングきょうしつ
- おたすけかつどう
- かいものをしよう
- くるくるサンドパーティーをしよう
- おおほりこうえんにいこう
- がっこうのパンフレットをつくろう
- 海、山、川、野原のチャレンジ活動
- 交流活動
- 宿泊学習

くるくるサンド
パーティーをしよう



おおほり
こうえん
にいこう



生活単元学習の実践事例集

目次

1	生活単元学習とは	1
2	取り上げる単元の要件	1
3	取り上げる単元	2
4	単元計画	5
5	単元構成について	7
6	生活単元学習の評価と関連内容の重要性	8
7	生活単元学習と各教科等との横断的な内容関連	9
8	生活単元学習の指導事例	
(1)	あたらしがくねん	10
(2)	きょうしつのみまりをつくろう	16
(3)	つきのこよみ(4がつのこよみ～3がつのこよみ)	24
(4)	やさいをそだてよう	37
(5)	むろみがわにいこう	47
(6)	クッキングきょうしつ	58
(7)	おたすけかつどう	65
(8)	かいものをしよう	73
(9)	くるくるサンドパーティーをしよう	80
(10)	おおほりこうえんにいこう	90
(11)	がっこうのパンフレットをつくろう	99
(12)	海、山、川、野原のチャレンジ活動	110
①	うら山ウォークラリー	111
②	あおばのおかウォークラリー	112
③	みかづき山登山	113
④	みとまかいがんたんけん	114
⑤	いの川たんけん	115
(13)	交流活動	116
①	地域の人との交流	116
②	学校間交流	118
③	家族との交流	120
(14)	宿泊学習	122

1 生活単元学習とは

生活単元学習とは、子どもの生活に身近な必要不可欠な課題に子ども自らが目的をもって取り組み、実際的な場面で具体的に解決していく学習活動である。つまり、子どもが自立していく上で必要なことから実際的・総合的に学習するものであり、学習後に子どもの生活につながる活動となるものである。

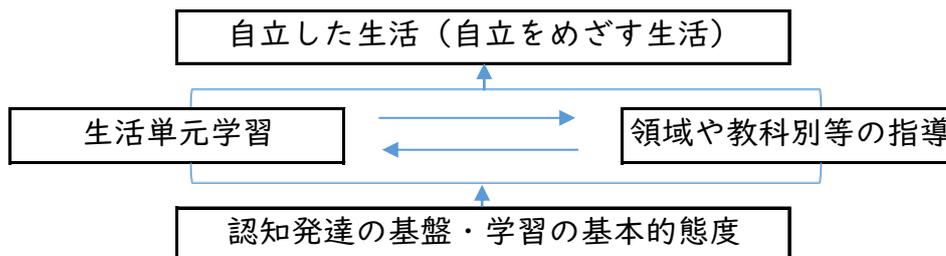
生活単元学習は、子どもの生活を高めることをめざすものである。そのためには、子どもの能動的な活動を具現化していくことが必要不可欠なことである。したがって、取り上げる単元、単元計画、単元構成、具体的な支援等について十分検討する必要がある。

生活単元学習は、領域・教科を合わせた指導の形態である。学習活動は、生活の自然な流れにそって展開していく。課題解決の力を高めることをねらいとし、自立をめざす学習活動である。子どもたちは、既習の教科や領域の内容を活用して課題を解決していくが、教科や領域の内容は、課題解決の過程で関連する内容である。例えば生活単元学習で取り上げる「ちょうりをしよう」は、調理ができるようになるための活動である。一方国語科の説明文教材「ちょうりをしよう」は、書かれている内容が調理の仕方等、生活単元学習と関連した内容であっても、「読む力」「書く力」「伝える力」等をつけるためにある。このように、国語科で学んだことが生活単元学習の活動を広げることに結びつき、「生活に活用できた」と活かされていくことが大切なことである。生活単元学習と教科の学習につながりをもたせることは、各教科の学習も生活単元の活動も高めることになる。

各教科等で学習したことが生活に生きて、生活単元学習での活動が各教科等の学習を高めるように、横断的な内容の関連を図った教育課程を編成することは大切なことである。

下の図は、生活単元学習と各教科等との内容の関係性を示している。

※ 教科別の指導と生活単元学習を相補的に関連させ、よりよい生活の実現をめざす。



2 取り上げる単元の要件

取り上げる単元は、生活に基づく活動で、子どもの生活力を高めるものであり、子どもが興味・関心をもつ生活上の課題を取り上げるものである。それは、調理や買い物、遊園地での遊び等、人やものへの関わりを広げながら、課題解決力を高めていくことができるものである。

生活力を高めることができ、能動的な活動が得られる単元には次のような要件が必要である。

- 「○○をしよう」「○○であそぼう」「○○をつくろう」「○○にいこう」と、子どもが活動に目的をもてる単元であること
- 子どもが興味・関心をもち、活動への見通しがもてる単元であること
- 生活力を高めるために、子どもの実生活に結びついた単元であること
- 自然な生活のまとまりであり、実際的な活動となる単元であること
- 子どもの発達段階に適合した単元であること
- 課題解決に向かって子どもが能動的に活動できる単元であること
- 人と関わりながら協同で取り組み、かつ、子ども一人一人が課題を達成できる単元であること
- 他の活動や生活につながっていく単元であること

生活単元学習は、教科や領域の内容を教えるための指導の形態であるが、各教科等の系統性に基づいて組織するのではなく、生活の流れやまとまりに基づいて計画・展開する、つまり生活の系統性を重視していく。関連する教科や領域の内容は、あくまでも課題解決のために活用するものである。

3 取り上げる単元

単元設定の要件に基づき、本書では、次のような単元を取り上げている。

単元	単元設定の意図	活動の概要とねらい
あたらしがくねん	○ 進級の自覚と学校生活への期待に結びつける。	○ 始業式を迎え、進級した学級で、クラス担任やクラスの友だちと紹介し合う。また、進級した学年で楽しい行事や学習等を話し合い、学校生活へ期待やめあてをもたせることにつないでいく。さらに、交流学級で友だちと自己紹介をし合い、学習する活動を捉えさせる。
きょうしつのきまり	○ 学習や生活道具の整理の仕方、係活動や当番を決める。 学級や学校生活の決まりを日常生活の指導につないでいく。	○ 進級した教室で、友だちと楽しく規則正しい生活ができるように、身の回りの整理の仕方や集団生活の決まり、係や当番等の役割分担、学級での集団生活の規範等をつくる活動である。 ○ 年度当初に、毎年設定し、学年段階や発達段階に応じて、規範意識や生活力を高めていく活動にする。 具体的には、持ち物等の整理の仕方を確認したり、係や当番の仕事を確認して決めたりして学級の決まりを意識づけ、日常生活の指導につなぐことをねらいとする。
つきのこよみ (4月のこよみ～ 3月のこよみ)	○ 合科的学習領域、教科、日常生活の指導等の内容関連がある。	○ その月の行事や季節ごとの自然、身辺処理や学校生活上の課題を取り上げる単元である。 1年間を見通し、その月々に必要な事柄を系統性と整合性をもたせて設定するものである。合科的な色合いの濃い単元である。 その月の行事を取り上げることで、次の①～③をねらいとする。 ① 行事への構えや期待感をもつこと ② 学校園や学級園の世話や校庭の樹木の観察で四季の移り変わりのなかで自然への関わりをもつこと ③ 身辺処理や学級・学校生活上のその月の重点課題を取り上げ、見通しをもって取り組むこと

<p>さいばいかつどう</p>	<p>○ 学級園で野菜や花を栽培し、収穫する。 収穫した野菜で調理をする活動につなぐ。</p>	<p>○ 学級園を耕して野菜や花を育てる。植物が生長していく様子を実感し、自分たちが育てたという成就感をもたせる。 ① 学級園で、苗（種）植え、観察、水やり、草取りを行いながら野菜を育てること ② 育てた野菜を収穫して、サラダや味噌汁等の調理をすることが主な活動である。 調理は、コーンやツナ、ハム、卵等を入れたサラダづくりや豆腐やネギ等を入れた味噌汁づくりに広げていくことができる。 また、家庭でつくったサラダや味噌汁を他の人に紹介し合うことで他への関わりを広げていくこともできる。</p>
<p>たんけんかつどう</p>	<p>○ 公共交通機関を利用して目的地に行き、現地の公共の施設や自然と関わって楽しく活動する。</p>	<p>○ 公共交通機関を利用して校外の施設に行き現地で友だちと楽しく活動をする。子どもたちは、校外で体を動かして活動することが好きなので、活動に意欲をもたせやすい。 ○ 公共の交通機関を利用して校外の施設に行くことができるようになること、現地で利用の決まりを守って友だちと楽しく活動することがねらいである。</p>
<p>クッキングきょうしつ</p>	<p>○ レシピを基に、子どもたちにできる調理をする。準備から片付け等までを行う。</p>	<p>○ 買い物→調理の準備→調理→配膳→食事→片付けの一連の活動の流れを簡潔にし、子どもが好きな簡単な調理を取り上げる。 ○ 身近な材料で簡単な調理をして食べるという一連の活動を実現することがねらいである。</p>
<p>ボランティアかつどう 「おたすけたい」</p>	<p>○ 「自分たちができることで、みんなの役にたとう」という課題でボランティア活動を行う。</p>	<p>○ 「おたすけ隊」という名称のボランティア活動を設定し、学校の周りのごみ拾いや学校園の花の世話等、子どもたちにできる活動に積極的に取り組ませていくものである。 具体的には、年間を通して、必要な機会を捉えて、掃除活動、片付け活動、花いっぱい活動に取り組む单元である。 子どもたちが掃除をしたり、花を飾ってきれいにしたりして進んで社会活動に参加できる自分自身を感じ、自己有用感を高めることをねらいとしている。</p>

<p>かいものかつどう</p>	<p>○ 調理活動やお楽しみ会と関連づけながら買い物の仕方を習得する。</p>	<p>○ 子どもたちに必要な物をお店に行って買い物をする活動である。買い物の仕方は、パン等、一つの物を一つの店で買う場合やスーパーマーケット等で複数の品物を探しながら買う場合、複数の店で買う場合等、様々である。</p> <p>買い物の仕方を高めるために、いろいろな買い物の仕方を段階的に設定する。</p>
<p>おたのしみかい かつどう</p>	<p>○ 自分たちで茶話会の会場をつくり会を遂行する。</p> <p>その学期の振り返りと次の体験への期待を発表し合う。</p>	<p>○ 学期の終わりに茶話会を設定して、その学期に頑張ったことや楽しかったことを動画視聴や写真を見て振り返る活動である。また、夏休みや冬休み、春休み、新学期に向けた期待感も発表し合う。</p> <p>子どもたち自身で、会場の設定、会の進行、片付け等を行う活動と、振り返る活動で過去の体験を楽しむとともに、これからの生活に期待を抱いていくことをねらいとする。</p>
<p>こうりゅうかつどう</p>	<p>○ 近隣の支援学級、高齢者の会との交流、異年齢、異集団と楽しく活動することで人と触れ合う喜びを体験する。</p>	<p>○ 近隣の支援学級や高齢者の会との交流活動である。様々な人と触れ合い、人と関わり合う喜びを実感することがねらいである。</p> <p>近隣の支援学級との交流は、森林公園や遊園地等の野外活動、高齢者との交流は、フラワーアレンジメントづくり、読み聞かせ等が中心的活动である。</p>
<p>パンフレット かつどう</p>	<p>○ 子どもが取材できやすい、家、学校、校区の施設の取材内容を設定し、一人一人の課題にそってパンフレットを作る。</p>	<p>○ 子ども一人一人の課題にそって、各自で取り組む課題探究活動である。</p> <p>○ 学校のパンフレットづくりでは、学校の先生や子ども、校舎や教室、学校での様々な活動を調べ、パンフレットにまとめる活動である。</p> <p>学校の人やもの、ことに目を向けさせることと学校への所属意識を高めることをねらいとする。</p> <p>○ おうちのパンフレットづくり、校区のパンフレットづくりは、家や校区の子どもに身近なことを調べ、パンフレットにまとめる活動である。</p> <p>どの活動も隔年で単元を設定し、子どもの経験値と活動の状況を踏まえ、課題を高めていく。</p>

4 単元計画

毎年新しい単元を設定するというのではなく、子どもにとって、生活場面に直結した現実度の高いものを取り上げることが大切である。活動の見通しをもつ力がつく、自ら取り組む力がつく、人やもの、ことに関わる力がつく活動を厳選し、小学校生活6年間、あるいは中学校生活3年間を通して活動を高めていくことを考慮して、同一の単元で活動内容に系統性をもたせ、高めていくように計画することが望ましい。

したがって、栽培活動、探検活動、買い物活動という活動のくくりで、年間数回実施する単元、あるいは、「合宿にいこう」等、毎年1回設定する単元を考える必要がある。

活動を繰り返していくことによって、活動に見通しをもつと同時に活動内容の習得を図ることができる。また、確実に自分でできるようになり、工夫して取り組むようにもなる。そのことは、子どもの課題解決力を高めることにつながる。また、活動を高めていくと子どもが自信をもちはじめ、子ども自身が他にも積極的に関わっていく姿が得られる。

単元学習には、例えば、友だちが転校する、友だちが病気になった等の偶発的に発生したことを取り上げる単元もある。お別れ会やお見舞い等は、子どもの必要性や思いを実現できる単元であるので、子どもの願いを受け入れて、偶発的単元として設定することが望ましい。

※ 単元と活動内容の例

単元	活動の内容	実施回数
あたらしいがくねん	○ 新年度当初、進級した教室での自己紹介や進級の自覚や抱負を抱かせるために取り上げる活動	・新年度に年1回実施
きょうしつのきまり	○ 新しい教室での生活の決まりをつくるために取り上げる活動	・新年度に年1回実施
つきのこよみ ○がつのこよみ	○ 月の行事やその季節の自然、その月の身辺処理の重点課題、その月の学校生活の課題の確認事項等を取り上げる活動	・月初めに毎月実施
さいばいかつどう やさいとはなをそだてよう	○ 夏・秋・冬の野菜と花の栽培期に取り上げ、野菜は調理活動、花は学校中に花を飾っていく花いっぱい活動と関連させて取り上げる活動	・夏野菜、秋野菜、冬野菜の栽培時に実施
たんけんかつどう	○ 交通機関の利用と施設の利用（遊園地や植物園）、自然体験（海、山、川等）を中心にした活動	・公共の交通機関、自然や施設の状況を考慮し、年数回実施
クッキングきょうしつ	○ 調理の準備、材料の買い物をして調理をする活動、子どもたちにできる調理のレシピで、難度を高めながら取り組んでいく活動	・調理活動の系統性を考慮しながら年4～5回実施
ボランティアかつどう おたすけたい	○ 「自分たちにできることで、みんなの役にたとう」と、3つの活動を設け、年間を通して機会を捉えて取り組んでいく活動	・機会を捉えて、年間を通して実施
こうりゅうかつどう	○ 近隣の特別支援学級や高齢者の会との交流をする活動 異年齢、異集団と楽しい活動を通して、触れ合うことの喜びを体験する活動	・交流相手と交流内容を明確にして、年2～3回程度実施

かいものかつどう	○ 計画を立てる→買い物の練習をする →買い物をする→買い物をまとめる という一連の活動を実現させる。 調理活動やお楽しみ会と関連づけながら 買い物の仕方を習得させる活動	・調理活動と関連させながら、年間4～5回実施
おたのしみかいかつどう	○ 学期末に、茶話会を楽しみながら、 楽しかったことを動画やアルバムで振り返り、 学期の活動を振り返る活動	・学期末に実施
パンフレットかつどう がっこう、いえ、こぐのパンフレット	○ 子どもが取材しやすい家や校区、 学校の取材内容を設定し、一人一人の 課題にそってまとめ、パンフレットを作る活動	・隔年で単元を設定

※ 年間指導計画の例

単元	月	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
あたらしいがくねん		○										
きょうしつのみまりをつくろう		○										
つきのこよみー○がつのこよみ ※ 4月のこよみから3月のこよみまで 毎月設定する。		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
さいばいかつどう ※ 夏野菜と秋野菜、冬野菜を栽培する。			○	○	○	○	○	○	○	○		
たんけんかつどう ※ おろみ川に行こう、海浜公園に行こう、 みかん山に行こう等				○				○				
クッキングきょうしつ ※ くるくるサンド、カレー、うどん、 めだま焼き、野菜サラダ等			○		○		○		○			○
ボランティアかつどう ※ 機会を捉え、掃除活動、片付け活動、 花いっぱい活動に取り組む。		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
かいものかつどう ※ 楽しいクッキング、お楽しみ会活動 と関連して行う。			○		○		○		○			○
おたのしみかいかつどう ※ 学期末に実施					○				○			○
こうりゅうかつどう ※ 近隣の支援学級や支援学校、 高齢者の会との交流等				○							○	
パンフレットかつどう ※ 家・校区・学校のパンフレット 等をつくる。							○					

5 単元構成について

生活単元学習は、人やものに積極的に関わり、課題を解決していく力をつけるものである。子どもが見通しをもち、課題達成に向けて自ら取り組んでいくようにするためには、事前活動、実際活動、事後活動の活動の流れで、単元構成を行い、活動の目的をつかみ、課題解決への見通しをもつことができる教材本を提示することが大切である。

(1) 課題解決力を高める単元構成の要件

① 事前活動、実際活動、事後活動の活動の流れとして、単元構成を、見通し活動→実際活動→振り返り活動の構成にすると、課題解決力を積み上げやすい。

○ 事前活動（見通し活動）

- ・「○○をしよう」「○○にいこう」「○○をつくろう」「○○であそぼう」という目的を友だちと共有できること
- ・活動のめあてや課題解決の見通しをもてること

○ 実際活動

- ・具体的場面で、現実度の高い活動ができること
- ・自分なりの力で課題を解決できる簡単な活動があること
- ・課題解決に向かって友だちと協同で取り組めるように集団化した活動や、子ども一人一人が自分なりに解決していけるように個別化した活動があること

○ 事後活動（振り返り活動）

- ・体験を振り返り、体験をまとめる活動があること
- ・次の活動に活かしたり、他の活動につなぐための活動があること
- ・自分の生活を振り返り、生活をよりよくしようとする機会となること

(2) 基本的な単元構成

事前活動ー見通し活動	実際活動	事後活動ー振り返り活動
<ul style="list-style-type: none"> ○ 活動の目的の共有化 ○ 解決への見通し <ul style="list-style-type: none"> ・活動の概括のさせ方 一連の活動の場面絵 ・見通しのもたせ方 行程表や手順絵等 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 具体的場面で現実的に解決する活動 ○ 一人一人の子どもに適合した活動 <ul style="list-style-type: none"> ・活動に取り組みやすい場の設定 集団化や個別化 ・解決の方法の提示 活動の場面絵や手順絵等 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 活動のまとめ ○ 体験の発信 <ul style="list-style-type: none"> ・活動の振り返らせ方 挿絵や写真 ・活動のまとめ方 記録、日記、アルバム、 等で表現

(3) 教材本の作成

生活体験が豊富でない子どもたちは、活動へ目的をもち、課題解決への見通しをもつことが苦手である。また、活動の目的や活動内容を言葉でも十分に伝えることはできにくい。そこで、目的をもち、課題解決への見通しをもって取り組む手助けとなる教材本を作成する。教材本を提示することで、活動にイメージをもったり、活動を振り返って体験したことを実感したりすることもできやすい。

教材本は、次のことを考慮して作成する。

- 活動の目的をつかませるために、活動を概括できるようにする。
- 活動の見通しをもたせるために、活動の流れや手順を挿絵や言葉で示す。
- 振り返りの活動の段階で、体験したことを振り返ることができ、活動をまとめる手がかりとなるように作成する。

※ 教材本の活用

- ・ 単元全体を概括させ、活動に見通しをもたせる。
- ・ 教材本は、活動が概括できるので、振り返りの段階で活動のまとめの手がかりとしても活用させる。
- ・ 体験を基にした学習素材になるので、教科の中で用いて学習を充実させる。

例：生活単元学習の学習後に、体験を国語の日記指導に取り上げる。

：たのしいクッキングの活動と関連させて、「サラダをつくろう」等、の説明文として国語で取り上げる。

：「かいものにいこう」で、金銭処理の学習として算数で取り上げる。

：「きょうしつのみまりをつくろう」は、身近処理や係活動等、1年間の日常生活の指導で取り組ませる。

6 生活単元学習の評価と関連内容の重要性

生活単元学習の評価は、課題解決の観点と課題解決の過程で教科に関連する内容がある。

その教科の内容は、課題解決を助けるものである。生活単元学習と関連する内容を各教科等で関連させて指導すると自ずと課題解決力は高まる。

その意味において、生活単元学習の評価で、教科との関連内容を具体化することが重要である。

単元	教科に関連する活動	
[あたらしいがくねん] 進級の自覚と学校生活への期待に結びつける。	生活 国語	先生や友だち、クラスや学年等、新年度の体制の確認 学年、クラス、友だちの名前、先生の名前の読み書き 新年度の抱負を書く。
[きょうしつのみまりをつくろう] 学習道具や生活道具の整理の仕方、係活動や当番を決める。	生活 国語	日常生活に必要な簡単な決まりやマナーが分かる。 身の回りの整理の仕方、当番、係の仕事、日常生活のおよその予定 持ち物に名前を書く。係の仕事、当番表を書く。
[つきのこよみ (4月～3月)] 月の行事とカレンダー 学校園と桜の木の観察 身近処理等の生活課題 今月の歌	生活 国語 音楽 図工	月の行事、身近処理等の基本動作の課題、季節の自然の観察 月の行事を書く。 カレンダー作り 月の歌を朝の会で歌う。 季節の自然を描く。
[さいばいかつどう] 学級園で野菜や花の栽培 観察と記録 収穫した野菜の調理 育てた花を飾る。	生活 国語	学級園を耕し、身近な野菜や花を栽培 植物の生長の観察記録 校内の美化活動 栽培日記を書く。(栽培記録)

[たんけんかつどう] 公共交通機関の利用 川の活動、山の活動、海の活動 遊園地の活動等で自然や公共施設や公共物の利用	生活 国語 算数	身近な公共施設や公共物等の利用 公共交通機関の利用 体験の記録をつくる。 体験後の日記を書く。 切符の買い方等
[クッキングきょうしつ] 栽培活動と関連づける。 会食をお楽しみ会と関連づける。	生活 国語	調理に親しみ、簡単な調理 食事の配膳や片付け 調理のレシピを読む。 体験後にレシピや日記を書く。
[ボランティアかつどう] 「おたすけ隊」 掃除活動、片付け活動、 花いっぱい活動	生活 国語	学校や地域で、奉仕体験 コミュニケーション活動 体験の記録をつくる。 体験後の日記を書く。
[かいものかつどう] 買い物に慣れさせる。	生活 国語 算数	身近な買い物、金銭の取り扱い 買い物の体験の記録 金銭処理
[おたのしみかいかつどう] 会の準備、茶話会の進行、 茶話会、片付け	生活 国語	準備や片付け 友だちと楽しく過ごす。 コミュニケーション活動 体験後の日記を書く。
[こうりゅうかつどう] 近隣の支援学級との交流 高齢者の会との交流	生活 国語 音楽 図工 体育	集団活動への参加、役割の遂行 挨拶や自己紹介、日程、学校の紹介 歓迎の歌 フラワーアレンジメントづくり ゲームや公園等の施設での遊び
[パンフレットかつどう] 子どもが取材しやすい家や 校区、学校の取材内容を設定し、 一人一人の課題にそって、パン フレットを作る活動	生活 国語 算数	家庭や学校、地域の探検 家や学校、地域の施設等取材しまとめる。 人数等をまとめる。

7 生活単元学習と各教科等との横断的な内容関連

体験を基にして教科等の学習を進めると、抽象的な学習に取り組みにくい子どもたち一人一人が学習内容を理解することができやすい。したがって、生活単元学習と各教科等との横断的な内容関連を行うと学習効果が高まる。

- (1) 生活単元学習で実践することと道徳の時間をつなぐと、道徳で取り上げる価値項目を理解できやすい。また、道徳で道徳的価値項目に触れることによって、生活単元学習の活動で価値項目を意識して活動することができやすい。
- (2) 国語科の日記指導を生活単元学習の体験と関連づけて取り上げると、体験とつないだ言葉の理解となり、場面を詳しく書いたり、したことの順に書いたりすること等、表現内容を見つめることができやすい。